

# ナマステ

特定非営利活動法人  
自然文化誌研究会 会報誌



## 141 号

2021 年 3 月 20 日発行号

### 2021 年 キャンプ実施に向けて

自然文化誌研究会 理事 鈴木英雄（冒険学校担当）

コロナ禍収束に向けてワクチンの接種が始まりました。なんて、昨今はこんな挨拶から文章を始めなければならない時代になりました。ワクチンが効果を発揮することで日常が戻ることを切に願います。

さて、先が見通せない状況が続いていますが、手探りの中、夏のキャンプは実施する方向で検討を進めることとしました。感染者を出さないために何をすべきかを考え、想定される全てのことを考慮に入れた上で、慎重に進めてまいります。募集する参加者は例年より少なくなりますし、キャンプでの制約も多くなります。ですが、その中でも子供たちが自然と向き合い、何かを感じてくれて、それでいて楽しかったと言えるようなキャンプにしていきたいと思います。また親子参加のヤマメ・イワナキャンプは当面休止します。



＜『こすげ冒険学校』は、8月5日から8月11日の6泊7日、定員15名の方向で開催予定、参加者・スタッフの全員が個別テントによる就寝の方法なども検討中です。＞

### ＜むらまつりキャンプについて＞

例年実施している5月のゴールデンウィーク中のキャンプですが、現状では難しいだろうということになりました。ですので、一般の参加者を募ってのキャンプは中止いたします。この時期は夏の小菅冒険学校を安全に実施するために、何をどうすれば感染リスクを最大限下げることができるかを検討、実践するための研修会とします。したがって、夏の冒険学校でスタッフをしてくれる予定の社会人、大学生を対象にキャンプを行います。※5/4に開催予定であった小菅村の「多摩源流まつり」についても中止が決定しました。

『冒険学校スタッフ研修会』 期間 5月3日から5月5日 定員 15名(対象は社会人、大学生)を予定。

(事務局より)

- ・冒険学校の募集については、次回の会報、HPでお知らせします。お問い合わせもお気軽にください!!5月末～の予定です。
- ・GWに開催予定の冒険学校スタッフ研修会では感染対策のため、事前のミーティングから研修会開始となります。
- ・12/26-28は「冒険学校まふゆのキャンプ」に代わり、感染対策のスタッフ研修会を行いました。3名が参加(佐伯さん、だにえる、みややん)でした。

第17 通常総会に関しては紙面の都合上、抜粋して報告いたします。

## 2020 年事業報告

<2020 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日>

2020 年度初頭よりコロナウイルスによる影響で主催事業をはじめとするほとんどの事業の開催を見合わせる結果となりました。そのため、ワーキンググループを作り、事業と経営の見直しを図ってきました。持続化給付金の交付を受け、会は存続することができました。

そんな中でも、会員および関係各位のご支援・ご協力があり感謝いたしております。

### 1. 事業の成果

#### (1) 野外環境学習事業（冒険学校・のびと講座・ログ事業）

| 月日       | 分類  | 事業            | 場所     | 参加者数 | 備考              |
|----------|-----|---------------|--------|------|-----------------|
| 5/3-5    | 冒険  | むらまつりキャンプ     | 小菅村    |      | 中止              |
| 8/2-     | 冒険  | こすげ冒険学校       | 小菅村    |      | 中止              |
| 12/26-28 | 冒険  | まふゆのキャンプ      | 小菅村    | 3    | 中止、スタッフのみで感染研修会 |
| 4/19     | のびと | 野草のてんぷらとお茶つみ  | 東京学芸大学 |      | 中止              |
| 8/15-24  | のびと | タイ環境学習キャンプ    | タイ     |      | 中止              |
| 9/26-27  | のびと | INCH まつり（ライブ） | 小菅村    |      | 中止              |

#### (2) ELF 環境学習中堅指導者（のびと）研修会（指導者養成事業）

| 月日       | 分類  | 事業     | 場所  | 参加者数 | 備考        |
|----------|-----|--------|-----|------|-----------|
| 11/21-22 | ELF | のびと研修会 | 小菅村 | 4    | ちえのわ学生と合同 |

#### (3) 植物と人々の博物館事業

| 月日 | 分類 | 事業      | 場所       | 参加者数 | 備考 |
|----|----|---------|----------|------|----|
| 通年 |    | 雑穀栽培講習会 | 藤野町      |      |    |
| 通年 | ゼミ | 自給農耕ゼミ  | 藤野町、上野原市 |      |    |

#### (4) 委託事業・案内など

| 月日   | 分類 | 事業       | 場所  | 参加者数 | 備考                   |
|------|----|----------|-----|------|----------------------|
| 12/4 | 委託 | 東京学芸大学実習 | 小菅村 | 4    | オンラインで開催<br>1 講義時間のみ |

#### (5) 広報事業

| 月日    | 分類   | 事業               | 場所 | 参加者数 | 備考         |
|-------|------|------------------|----|------|------------|
| 3/10  | 会報   | 会報ナマステ 139 号発行   |    |      | 300 部      |
| 5・6 月 | 会報   | 会報ナマステ WEB 版発行   |    |      | WEB 掲載の特別号 |
| 11/10 | 会報   | 会報ナマステ 140 号発行   |    |      | 200 部      |
| 常時    | HP   | ホームページ、ブログの更新    |    |      |            |
| 常時    | メルマガ | 植物と人々の博物館メールマガジン |    |      |            |

(6) 共催事業

| 月日 | 分類 | 事業             | 場所     | 参加者数 | 備考                 |
|----|----|----------------|--------|------|--------------------|
| 年間 | 共催 | 第 15 期 ちえのわ農学校 | 東京学芸大学 | 18   | 中止(年間 10 回+宿泊 1 回) |

(7) 会議・その他

| 月日   | 分類 | 事業             | 場所       | 参加者数 | 備考 |
|------|----|----------------|----------|------|----|
| 2/16 | 総会 | 第 16 回通常総会・理事会 | 小菅村      | 25   |    |
| 常時   | 会議 | 運営委員会          | メーリングリスト | 20   |    |

●出版物

民族植物学ノート 13 号（電子版）

●会員（2020 年 12 月 31 日現在）

正会員：24 人      一般会員：24 人      家族会員：11 家族

学生会員：6 人      賛助会員：4 人      友の会会員 2 人      合計 71 人（年会費納入者）

●役員

<理事>

中込卓男      代表理事  
中込貴芳      副代表理事  
小川泰彦      副代表理事  
横山緑  
鈴木英雄  
黒澤友彦  
亀井雄次  
木下稔  
加藤翔  
(新) 西村俊

<監事>

瀬谷勝頼  
雫永法

<運営委員>      （順不同・敬称略）

左記の理事と幹事も運営委員となる

木俣美樹男  
佐藤雅彦  
立川信史  
藤盛礼恵  
菱井優介  
井上尚子  
平田大介  
青木（和田）綾子  
由本圭  
宮本透  
柴田一  
横山昌佳  
佐伯順弘  
(新) 賛田隼人

令和2年度 特定非営利活動にかかる事業会計収支計算書

令和2年1月1日から令和2年12月31日まで

特定非営利活動法人自然文化誌研究会

| 科 目            | 金 額（単位：円） |           |           |
|----------------|-----------|-----------|-----------|
| <b>I 収入の部</b>  |           |           |           |
| 1 会費収入         |           |           |           |
| 会費収入           |           | 456,000   |           |
| 2 事業収入         |           |           |           |
| (1) 野外環境学習事業収入 | 0         | 0         |           |
| (2) 指導者養成事業収入  | 0         |           |           |
| (3) 博物館事業収入    | 0         |           |           |
| 3 委託事業収入       |           |           |           |
|                |           | 0         |           |
| 4 補助金等収入       |           |           |           |
| 助成金収入          |           | 400,000   |           |
| 5 寄付金収入        |           |           |           |
| 寄付金収入          |           | 382,000   |           |
| 6 雑収入          |           | 1,740,500 |           |
| 当期収入合計(A)      |           | 2,978,500 |           |
| 前期繰越収支差額       |           | -493,458  |           |
| 収入合計(B)        |           |           | 2,485,042 |
| <b>II 支出の部</b> |           |           |           |
| 1 事業費          |           |           |           |
| (1) 野外環境学習事業費  | 44,093    | 79,514    |           |
| (2) 指導者養成事業費   | 22,681    |           |           |
| (3) 博物館事業支出    | 12,740    |           |           |
| 2 一般管理費        |           |           |           |
| (1) 職員給与       | 1,020,000 |           |           |
| (2) 通信費        | 23,903    |           |           |
| (3) 事務局運営費     | 54,826    |           |           |
| 燃料代            | 69,167    |           |           |
| 電話代            | 221,130   |           |           |
| 事務用品費          | 24,360    |           |           |
| 書籍資料代          | 0         |           |           |
| 印刷・製本費         | 52,170    |           |           |
| 備品代            | 50,408    |           |           |
| 3 予備費          | 0         | 1,515,964 |           |
| 4 補助金支出        | 0         | 0         |           |
| 当期支出合計(C)      |           |           | 1,595,478 |
| 当期収支差額(A-C)    |           |           | 1,383,022 |
| 時期繰越収支差額(B-C)  |           |           | 889,564   |

成合基金：¥215,000

令和2年度の決算報告について出納簿等提出された書類に基づき監査した結果その内容は正確であることを認めます。

令和 3 年 2 月 5 日

監査員

同

瀬谷 勝頼

零 永法



事業の見合わせにより支出が少ない中で、持続化給付金を受けた結果となりました。

## アイラ島再び（その 3） 佐伯 順弘（岐阜県）

### DAY5-6（12-13AUG2016）アイラ島滞在。

・蒸留所巡り

・ウィスキー三昧

#### DAY5（12AUG2016）アイラ島滞在。

0000 覚醒。まだ寝る。

0643 起床。西の風 風力不明 曇り時々雨

アイラ島到着3日目。今日は蒸留所巡り。

0742 朝食。まともな食事は基本的にこのフルブレックファーストだけにしようと思う。余計なカロリーも、余計な出費も極力抑えるのがこの旅のスタイルである。栄養吸収後の残渣の廃棄などを終え、ここで予定の詳細を正式決定する。

Buichladdich Pier まで 1005→1026 のバスで行くことにする。帰ってこられる最終のバスは Buichladdich Pier から Bowmore co-op まで 1647→1708 であることも確認した。今更説明の必要もないが、Buichladdich Pier は、有名な（アイラ島の蒸留所で有名でないところなどない。2016 年現在はまだ建設途中で製造開始 2018 年の Ardnahoe でさえ、知られているくらい。）Buichladdich Distillery（ブレイックラディ蒸留所）近くの埠頭である。また、今回起点としているのが Bowmore co-op というバス停があるボウモアである。生協の前にバス停があるので、買い物、お出掛けに至便である。

今日の研修前に、行動用財布に軍資金を追加する。150GBP 追加で計 239.2GBP（現在のレートで 35500 円ほど）を懐に入れて、今日の研修へ出かける。



1005「No.450」バスで Buichladdich Pier まで。1033 バス停着。2.6GBP。1035 蒸留所正門着。ビジターセンターへ。蒸留所見学ツアーは 1400！ま、こういうことも想定内なので特に驚くに値しない。分刻みで観光地を回る旅行ではない。気ままな旅をしているのである。ビジターセンター内のショップを見て回る。多くの種類と数のボトルがずらりと並ぶ。その一角に透明なボトルが輝いていた。「BOTANIST」。

ボタニスト、植物学者という意味らしい。22 種類もの薬

草を入れたジンである。ウィスキーとは関係ないように思われるが、蒸留酒であることは同じであり、当然ながら施設、技術も同様のものなので作りやすいはずである。それよりも重要なことは名前である。このボタニストの綴りをもう一度素直な目で見てほしい。

そこには BOTAN（ぼうたん＝冒探＝冒険探検部）+IST（「…する人」「…を奉ずる人」「…主義者」「…家」）が見えてこないだろうか。すなわち、これは冒探の公式飲料であるのだ。それまで、冒探の公式飲料（であると、勝手に認識していた）はズブロッカと一升瓶にはいった五ーワインである。そこにまた、新たな公式飲料が加わっているのである。それを製造しているのがアイラモルトとして素晴らしいウィスキーを世に送り出しているブレイックラディというのうれしい話ではないか。



それにしても、時間があまりすぎるので近くにカフェでもないかと探してみると、ありましたよ。Buichladdich mini market というちょっとしたショップとカフェが併設された店。カプチーノがフォームドミルクテンコ盛りで想定外の旨さ。ついでに頼んだサンドイッチもホットサンドでこれまた旨い。余計な出費はおさえるようにしているが、時間を楽しむための出費は問題ではない。読書をしつつ、穏やかな時間を過ごす。外は小雨。しかもいわゆる氷雨というやつで本気で寒い。日本でいうと 12 月の寒さといっていい。軽量コンパクトなフードつきのアウターが必要である。もちろん、防水機能を有するものでなければならない。今回は、防水でないパーカーしかもってこなかったため、このカフェのように温かい場所はありがたい。

かなり長居をした。

1400 蒸留所ツアーの客でいっぱい。この蒸留所は多くの人々が注目しているのだろう。テイastingで味わったウィスキーを買っていこうかとも思ったのだが、動きが鈍くなるのでやめておく。説明は 1/4 程度わかったかどうか



かだった。もっと聞き取れるつもりでいたのだが、スコットランド訛のためか、英語の修行を怠ったためか…。おそらく後者であろう。語学は日常的に使わないとどんどん衰える。事実、中国語もかなり衰えたと感じる。英語や中国語の曲を積極的に聞いているのだが、それだけじゃなあ。状況に応じて自分の考えを表現して、それに対する反応によって学んでいかないとだめだなあと痛切に感じる。折角、旅で覚えた言語も悉く消えていく。残念なことだ。ツアーは1時間ほどで終了。5GBP。

ショップでBOTANIST のラグビージャージを購入。サイズ40と42のサイズで大いに迷ったが、42で成功だった。こういう時の判断は概ね正解であることはありがたい。旅先での判断は一時的に誤ったかと思われることでも最終的には正解であることが圧倒的に多い。そうでないことは思い出せないくらいである。こういうときに神への感謝を大切にしたいと思う。BOTANIST のミニボトルと合わせて50GBP

(現在のレートで約7400円)

1655 約10分遅れて、バスが来た。終日小雨で薄暗くなってきていたので、かなり心配していたのだが、無事来てくれてよかった。2.6GBP

1714 ホテル着。バスはやたらぶっ飛ばして20分もしない内に、ボウモア生協前に到着した。薄手のパーカーが湿っていたので、着替える。絵葉書をかいいたり、記録をしたりして過ごす。

1918 夕食へ向かう。まずはシードル3.7GBP。シードルはフランス語なので、サイダーといった方が正確か。こちらはビールの他にもこのシードルをよく飲む。日本で売られるサイダーの元になった飲料らしい。しかし、こちらはリンゴの発泡酒で日本のサイダーとは全く違う。以前、ロンドンでストーンロングボウというのを飲んだのがシードル再認識の始まり。まだ、研究に熱中するほどではない。次に銘柄もしらないビールをサーバーのラベルだけで選んでオーダー3.6GBP。アルコールばかりではいけないと思い、F&C (フィッシュ&チップス) をオーダー。こちらは部屋につけられた。テイスティングと寒い中の移動が続いたため疲れたのだろうか。これだけでもう十分だった。

2100 部屋に戻る。シャワーを浴びて、寝る。

## DAY6 (13AUG2016) アイラ島滞在。

0300 覚醒。また寝る。

0730 起床。曇り

アイラ島に到着4日目。今日も蒸留所巡り。

0830 朝食。フルブレイクファースト。夕食を軽くしているので、朝からしっかり食べられる。朝食後部屋に戻って、今日の予定を決める。昨日はアイラ島の西方面にあるBruichladdich へ行った。今日はアイラ島の東側にある3つの蒸留所をめぐる。宿泊しているBowmore はアイラ島の中央付近にあるので、昨日とは反対側への研修である。この3つの蒸留所はそれぞれ1.5km ほど離れているだけで1つの地域にあると言ってもいい。Bowmore からバスに

乗り、一番遠い Ardbeg で下車し、そこから徒歩でLagavulin, Laphroaig と巡る計画。そして、

Port Ellen まで行き、そこからバスでBowmore まで戻る。

1020 バス乗車。2.95GBP

1053 Ardbeg Distillery (アードベッグ蒸留所) 到着。ところが、ここで問題発生。蒸留所見学ツアーが満席だというのだ。残念。(しかし、これが後に素晴らしい出会いにつながるが、それはまた次の旅の話である。) 次の回のツアーにすると、時間がずれて最終的に帰るバスが無くなる恐れがあるため、今回は断念した。ま、残念であるがどうということもない。カフェでコーヒーでも飲むかと Old kiln café へ。コーヒーを飲んでいると、目に入ったのはExpress table tasting 15GBP だ。だがしかし、1対1で説明されても、昨日半分もわからなかったのだから、残念なことになるのが目に見えていた。正しい判断で止めておいた。なんでもやってみればいいというものではないのだ。十分理解できないのに、説明だけさせるなんて愚かなことだ。そんなことを考えつつ、次のLagavulin へ向かう。この地域にある3つの蒸留所はThe Three Distilleries Path という遊歩道でつながっているので、快適な散歩ができるのである。朝の曇り空が嘘のように晴れ渡り、花々が咲き乱れ、温かい風(8月なんだから暑くてもいいのだが)が心地よい。遠くに海岸が見える遊歩道をのんびりと歩く。車道沿いではあるが、多くが石垣で分離されており、安全性は問題ない。しかも、ところどころに寄付されたベンチが置かれ、景観を楽しんでほしいとのプレートまでつけられている。

前後には人はいない。気分の良い一人旅の瞬間である。人と会うのは好きだが、こうやって自然と素直に向き合う時間は貴重だ。登山をしているときも、長距離走をしているときも、自然と自分自身を楽しんでいる気がしている。最近ソロキャンプが流行しているのも人々がそういうことの大切さに気づき始めた部分もあると思う。もちろん、部分というだけで、全部だとは思っていない。人と交流することが苦手な人や面倒くさいという人も少なくないことはよく知っている。人と対等に付き合うということは、自由を制限するということだから、気遣いとか我慢とかいったものが必要になってくる。自分の自由を全開放したなら、相手と対等・平等にはならない。では、自由と平等は両立しないかというところ2つの条件によって成立する。それは知性と品格である。相互安全保障、そして、人と人の間に生きているという感覚、慎みの感覚、それを「自分を律するもの」として身につけているかということだ。

きっと多くの人が身につけずに生きているのだろう。私の同僚の9割、生徒たちの5割はそういった感覚をもっていない。大人の方が傍若無人に生きている。それが指導者にも保護者にもなっていない中途半端な者たちの現状だ。いやいや話が暗くなった。1人でいるとそういった内なる旅にどんどん進んでしまうが、いやではない。散歩も長距離走もあつという間に終わってしまう。

という間に、2 つ目の蒸留所 Lagavulin に到着である。この蒸留所で作られるウィスキーもかなり好きなのだが、この時はほとんど見学者がいなかった。テイスティングしたいのだけれど…と話すと、ここでゆっくりしていったと 1 杯おこってくれた。



冬ならば、火が入るであろう暖炉の部屋。ゆったりとしたソファが心地よい。説明よりもまず飲めという姿勢が潔い。そりゃ旨いはずだ。

多くの蒸留所は船への荷積みを楽しむためだろうか、海沿いにある。蒸留所から海が見えるデッキに出る。明るい青の空、深い青の海、そして、そこに流れ込む茶色の川。(大地を覆うピート層のため、川は茶色になる。ピートの説明は改めて…) ここから世界に向けて荷積みをしたのだろうか。ここ Lagavulin Distillery (ラガブーリン蒸留所) は 1816 年創業で 2016 年の今年は 200 周年だったらしい。200 周年の企業がこうして今も必要とされていることが素晴らしい。ロゴ入りグラスを 1 つ買って、蒸留所を後にする。

わずかな酔いととも、のんびりと散策する。次は 1.6 km 先の Laphroaig Distillery (ラフロイグ蒸留所) である。

車もそれほど通らない。海風が気持ちいい。この遊歩道はまだ新しいのだろうか。補習したのだろうか。アスファルトが新しい。丁寧な仕事だ。丁寧な道路工事は日本だけかと思っていたが、そうでもないらしい。

1344 ラフロイグ蒸留所到着。ここの蒸留所見学ツアーは参加したことがあるので、とりあえずパス。で、まずは土地の借地料を受け取りに行く。既にご存知のこととは思いますが、私はこのアイラ島のラフロイグ蒸留所敷地内に土地を持っている。そう、書類上はそうなっている。それをラフロイグ蒸留所に貸しているのだ。当然借地料が発生する。ビジターセンターの一角にあるマシンに必要な事項を打ち出すと、貸し出している場所の地図などが表示された書類がプリントアウトされる。それをカウンターに持って行き、借地料を受け取る。ウィスキー 1 ショット。ちょっとした遊びである。それでも、自分がアイラ島に土地を持っていると思うだけで、大切に思う気持ちが断然違う。どうやって土地を入手したのかとか、どのくらいの広さの土地なのかとか、そういった野暮なことはここでは書かない。たい

したことはないのだ。ビジターセンター内のショップでラグビーシャツを買う。ブルイックラディでも買ったが、今回は良いものに出会う機会が多い。29.99GBP (約 4400 円) これで 3 つの蒸留所を巡ったわけだが、トレッキングはまだ続く。バスに乗る予定の街は Port Ellen (ポートエレン) なのだ、まだ 1.6km ほどある。途中、大きな倉庫を見つける。倉庫についていたプレートには beam suntory とある。ラフロイグ蒸留所はサントリー社の傘下にあるのだった。しかし、ここまで大きな倉庫に何を入れているのだろう。まあ、どうでもいいといえばどうでもいいが、気にならないこともない。結局のところ、どうでもいい。頑張ってよいウィスキーをつくってほしい。人気が出過ぎて、品物がないうんて状態にはならないでほしい。品薄と言えば、サントリーの「山崎」「白州」である。原酒がないとのことだが、本当にどこにも売っていない。ネットで見ると信じられない高値がついている。海外でも山崎は知られているのだから品薄にもなるだろうが、飲めないのは大変残念である。

そんなことを考えながら歩いていると、あっという間に Port Ellen に到着である。この街は初めてアイラ島にきたときに宿泊していた街なので、そこそこ詳しいのだ。

1433 若干小腹がすいていることに気づく。ここにも生協があるので、そこでサンドイッチを買う。2.25GBP。水は持っているので、海岸沿いのベンチでゆっくり食べる。わずかに温かい快適な気温、気持ちの良い海風、波の音、鳥の声、そして、旨いサンドイッチ。幸せをかみしめる。

毎回のように書くが、UK の食べ物は旨い。高級レストランにはいかないけどそのレベルでは知らないけれど、普通にバックパッカーが食べるものは普通に旨いのだ。だから、知りもしないのにイギリスの食べ物はまずいなどとはいわないほうがいい。ついでに、イギリスという言い方さえ最近ではずかしいと思うのだから…。その辺りについては前回書いたと思うので、参照してほしい。

1540 街を散策する。以前宿泊したホテルである White Hart Hotel の前の海沿いの庭。そのさきにある Port Ellen Malting。ここは昔蒸留所だったが、ウィスキーの人気がない時期に耐えられず、閉鎖。その後、モルト(麦芽)製造だけを行っていたらしい。最近ウィスキー人気が高まったため、また再開するとの話も聞く。これでアイラ島の蒸留所は 10 か所になるのだろう。Islay Hotel のカフェにはいる。このカフェは「Tuborg」を置いていることを憶えていた。私が旨いと思うビールの 1 つであるがこれは UK ではなく、デンマークのビールなのである。なぜ、この北の小さな島にツボルグが?とも思ったが、旨いものだから何の文句もない。安定の旨さを堪能した。

1627 無事バスに乗り込む。2.75GBP。今夜は牡蠣を楽しむことにする。(続く)



## 宮本茶園

2017年1月に新規就農してから5年目に入りました。昨年は佐野川茶製品にもコロナ禍の影響多大で販売実績は苦戦していますが、販路は着実に増えており手ごたえを感じています。先日県農業技術センター木村普及員の営農指導があり、今後の茶園経営についての講義を受けました。木村先生は体を壊さず作業暦通りに仕事ができるようになった事を「農民の体ができてきましたね」とほめてくださいました。重い肥料袋を担いでの施肥や炎天下での除草作業がつらいと感じなくなったので、とても嬉しくなりました。

話は変わりますが、昨年12月でピオ市が終了しました。就農研修時代からお世話になり、農家になってからは佐野川茶や切花を販売させていただいたので感謝無量です。長い間運営に尽力されたスタッフの皆様にお礼申し上げます。ピオ農家仲間からいただいた愛着ある「ヘル宮本」のペンネームですが、これを機に実名に戻します。

### ・冬の茶仕事

昨年復活させた宮本茶園謹製煎茶、あるお客様から「〇〇園で買う800円のお茶の方がよっぽど美味しいわ」と厳しい言葉をいただきました。伝統ある大きな産地で機械を使って管理・生産される有名ブランド茶と山間の急斜面にある荒廃茶園を再生して手作業の管理・生産をしている宮本茶園の佐野川茶、味と値段を同等に比較してくださったお客様の言葉を胸に深く刻み込んで土作りと圃場整備に取り組みしました。

佐野川茶にする茶園には雑穀畑や千木良のゴエモンでいただく大豆殻・藁を畝間に敷き詰め、足りない分は近所の萱場でススキを刈って運びました。茶草場農法の作業は寒いので一日2~3時間しかやらないのですが、毎日少しずつ見晴らしがよくなる萱場に立つと「にほんの里100選」景観維持に微力ながら貢献している気分になり、自己満足しています。



2018年冬に藤野茶業部で実施した荒廃茶園再生の取り組み、整備後に私が管理する事になった茶園は昨年より茶葉を収穫できるようになりました。隣の荒廃茶園との間が狭くて摘採作業がやり難く、地主さんをお願いして通路を広げさせてもらいました。チェーンソーで株元から太い幹を切る作業は殊の外難儀で、

## 宮本透

一日数株しか処理できません。伸び放題の茶樹を切っては花卉畑に運んで積み上げる作業を正月明けから約3週間繰り返しました。2月になって伐採茶樹を山火事に注意しながらのんびりと燃やし、木灰は耕耘機をかけて花卉畑にすきこみました。昨秋からアルバイト日数を減らして野良仕事の時間増やしていますが、やる事際限なく登場します！



### ・ちーむゴエモンの活動（醤油仕込み・醤油搾り・味噌仕込み）

昨秋は上岩雑穀畑で収穫したキビ・アワ・津久井在来大豆を千木良のヤギ苑に運び、高橋さんに脱穀していただきました。機械操作を教わりながら、ゴエモン活動の醤油作りを趣味として楽しんでいるというお話を伺いました。私にとってもちーむゴエモンは居心地のよいサークルで、田植え・稲刈り等の行事は欠かさず参加し、昨年からは味噌麴の仕込みを担当しています。教員時代は弓道場や囲碁教室に通う趣味がありましたが新規就農してからは野良仕事で手一杯、ゴエモンの麴作りはYouTubeでのアニメ鑑賞と並ぶ大切な趣味となっています。

今冬は1月30日から2月5日までの1週間で醤油仕込み・醤油搾り・味噌仕込みを行う超過密な計画を立てました。醤油原料の小麦と大豆は上岩雑穀畑で収穫、それぞれ7kgを仕込みに使います。事前準備の小麦焙煎・挽割は高橋・高村師匠に手取り足取り教えていただきました。焙烙で炒った小麦を数粒コップの水に落として沈むようになった時が焙煎の頃合いで、数日かけて熱を下げ製粉機で挽割ります。文字で表現すればこれだけの事ですが、二人の技を見ていると熟練が大切だとわかります。

1月30日早朝から前日に浸漬した大豆を柔らかくなるまで煮てザルにあげ、作業台で挽割り小麦と混ぜ合わせます。人肌温度に下がったら種麴をまぶした小麦粉を満遍なく振りかけて混ぜ、布を敷いた麴蓋へ重



量が均等になるように入れて麴室に移して加温します。一段落後にあたふたと昼食をとり、午後は味噌麴の仕込みです。ゴエモン味噌は玄米麴が人で、今回はセイロを3段にして蒸しました。各セイロに入れた玄米の蒸し上りを同じにするために蒸し加減を観察しながらセイロの上下を入れ替える作業は意外に難しく、養護学校に勤務していた頃生徒たちと取り組んだ経験が役立っています。道具を片付けて夕食、休む間もなく2時間おきの品温検査です。

31日まで品温管理は順調で日付が変わった2月1日午前1時の検温後に気が緩み、目覚まし時計のスイッチを入れ忘れました。目が覚め時計を見ると5時半を過ぎています。慌てて麴室に入ると品温が40℃を超える麴蓋があり、扉を開放して室温を下げ麴蓋の上下を入れ替えました。それから味噌麴の手入れと悪戦苦闘している最中、高橋さんが来てくれました。不詳の弟子への師匠のきめ細やかな心遣い、深く感謝しています。

醤油麴は2月2日、醗にしました。昨年仕込んだ醤油の搾りが3日、味噌仕込みと樽出しが5日、正に怒涛の1週間でした。まあさの家で醤油搾りの打ち上げ、搾りたて醤油でお刺身をいただきました。搾りたて醤油とゴエモン味噌は孫娘に届けました。いつの日か孫娘と醤油作りできる事楽しみにしています！



### ・雑穀街道普及会発足

植物と人々の博物館メールマガジン第73号に報告されましたが、1月31日に雑穀街道普及会が発足しました。私は2015年春藤野へ移住してからずっと雑穀栽培講習会やシンポジウム開催等の準備会活動にかかわってきたので、幹事を引き受けました。

会則にある普及会活動では、在来品種の保存・普及、小規模家族農耕技術の学習・啓発、農山村の地域振興、FAO世界農業遺産登録申請準備等が挙げられています。私は2018年から農家として雑穀栽培に取り組んでいますが、これから雑穀栽培を始める方の参考に課題と対策をお伝えします。

### ①野生動物・病虫害被害

- ・2019年秋は猪に鉄柵を破られ、大豆・雑穀は収穫できませんでした。
- ・甲州トウモロコシは猿に全て食べられ、栽培を止めました。
- ・大豆・小麦は発芽時の鳥害が酷く、今は播種時に忌避剤を使用しています。
- ・キビ・アワは市販の20mm網目の防鳥ネットを使いましたが効果は無く、昨年農協に相談して12mm網目のネットを特注しました。雀の侵入を防いで収穫できましたが、ネットが高価で採算ベースに見合いません。ネット張り・片付けは木匠師や農家仲間に手伝っていただきました。ネット・支柱パイプは重量物で、保管場所は地主さんの納屋を借りています。
- ・麦類は脱穀後夏の間天日干ししていますが、コクソウムシの食害が防げません。昨秋から農家仲間の冷蔵庫を借りて保管しています。

### ②脱穀・調整作業

- ・雑穀は中古の足踏み脱穀機を購入して作業しましたが効率が悪く、今はちむゴエモンの高橋さんの脱穀機を使わせていただいています。
- ・脱穀した麦類・雑穀は搗精作業が難しく、四方津のあるJAクレイン加工場に依頼しますが業務縮小で小麦・キビ・アワしか加工できません。小麦20kg、キビ・アワ各10kg以上が受付条件です。これ以外の雑穀は西原の中川さんをお願いして搗精していただいています。
- ・収穫物は納屋に置いていたのですが野生動物が侵入して食べ荒らされたので、今は自宅で保管しています。

### ③流通・販売

- ・ピオ市で販売していましたが、ピオ市が終了し農協直売所「あぐりんず」での取り扱いを交渉しています。
- ・「雑穀街道佐野川」ブランドで販売する包装・ラベル表示については、保健所や市農政課に相談しながら準備しています。キビ・アワ等搗精した雑穀は加工品扱いになり、包装は業者に委託します。
- ・販売価格は近隣のスーパーや八王子の成城石井・こだわりや等で調べた商品価格を参考に考えていますが、消費者が求めやすい価格と原価計算した価格に隔たりがあります。

以上、上岩雑穀畑での3年間を振り返りましたが、播種以外は一人では何も出来ないのが実状です。畑に種を播いて穂を刈り取るまではそれほど難しくはありません。そこから先収穫物を食べられるようにする工程が簡単ではないので、幹事として情報を収集し提供していきます。上岩雑穀畑は見本園で種継し、普及会活動ができるように耕作しています。雑穀栽培に興味ある方はご連絡ください。

(宮本携帯：090-2205-8476)。

## 八丈島探検記～本編その3

賛田隼人（だにえる）

今回は、2019年8月18日～22日に行ってきた八丈島の旅行記の21日、22日にあたる内容を書こうと思っていました。しかし、21日は前日とそう変わらない行動をしていて、22日は朝のフェリーに乗るために撤収くらいしかしていないので面白味が少なかったなので、おすすめのスポットを紹介しようと思います。

まずは温泉から。八丈島には7つの温泉（有料・無料・足湯など全部込）があります。全て三原山側（島の南側）にあるので、1日周遊券を買って温泉巡りの日を作るのも面白いかもしれません。僕が行った3か所を紹介します。

### ＜末吉温泉 みはらしの湯＞

入湯料500円で、海に面した絶景露天風呂に入れます。シャンプーなどが使えるので帰る前日に利用しました。お湯が熱めでしたが、天気も良く、海が綺麗だったのでしばらく眺めていたらのぼせそうになりました。

### ＜洞輪沢温泉（ぼろわざわおんせん）＞



みはらしの湯よりも奥に進むとある無料の温泉。正直、車などが無いと行くのが大変です。漁港に隣接する形で設置されているので観光客向けというより、漁師の体を温める目的だったのかも想像してしまいます。シャンプーなどは使用不可で、中も結構暗いのでお勧めはしにくいのですが、浴室内にボイラー音が響いていて目を瞑っていると自分が茹でられているかのような錯覚ができて楽しかったです。

### ＜裏見ヶ滝温泉＞

観光スポットの裏見ヶ滝のすぐ近くにある無料の温泉。洞輪沢温泉同様、シャンプーなどは使用不可。加えて、男女共用なので水着が必要です。お湯がぬるめなのでんびりできるのもいい点だと思います。ここの先にやすらぎの湯、ブルーポート・スパザ・BOON、足湯きらめきと3つ温泉スポットがありますが、裏見ヶ滝温泉で

満足してしまうとそちらまで足が向かわないのがある意味問題。

### ＜八丈島ジャージーカフェ＞

スーパーあさぬまさんに隣接している小さなカフェです。島の食材を使ったアイスやソフトクリームなどが楽しめるのに加えて、コンセントやWiFi環境が整っているのでとても助かります。比較的空港が近いので、本来なら空港を利用する人のためにあるのかもかもしれませんが、キャンプに来ていた人からしてもありがたい話です。キャンプ泊などの長期の外出では、電源の確保が問題の一つになるかと思います。もちろん、僕もモバイルバッテリーを持って行っていました。キャンプ場には電源がないので、こういう電源を利用できる場所が島内にあることが嬉しかったです。ふれあい牧場で食べたプリンが本当に美味しかったので、ジャージーカフェでも食べられたら最高なんですけど…。



### ＜三原山＞

八丈富士を「西山」とも呼ぶそうで、それに対をなす「東山」です。登山道まで林道を通ったり、駐車場も車三台おける程度の少なさだったりしますが、ヘゴがたくさん見られるなど、八丈島の植生が楽しめるのが魅力だと思います。また、三原山には硫黄成分によって青色もしくはエメラルドグリーンに見える硫黄沼や唐滝といった見どころもあるので、温泉と絡めて三原山を攻めるのもいいと思います。ちなみに、僕が登った時は霧が濃く出てしまったので頂上からの景色は味わえませんでした…。

### ＜八丈富士＞

三原山と違い、登山道までの道路が整備されていて、



車で行くのは難しくありません。自転車や徒歩で挑戦する場合は鉢巻道路沿いにあるふれあい牧場で休んでから行くのがいいと思います。登山道も手が入っており、なんと頂上まで大半が階段になっています。1000段を超える階段を乗り越えると自然あふれるカルデラがあり、振り返れば八丈島の街並みや滑走路が見える素晴らしい景色が広がっているので登る価値はあります。そのままお鉢巡りをしていくと、最高地点の標高854.3メートルにたどり着くことができます。お鉢巡りは細い道や風が強く吹くことがあるなど、やや注意が必要です。お鉢巡り以外にも、火口へ向かって進む道もあり、神社があるそうなので次に登る機会があれば行ってみたいと思っています。もう一度1000段以上の階段に挑む覚悟が準備

できたなら、ですが…。

それと、以前八丈島と青ヶ島に行ったときの話になるので余談になってしまうのですが、お鉢巡りの最中にブロッケン現象を観測できたのが思い出深いです。自分の影が火口の中に漂う霧に大きく映り、虹のような輪がかかる景色はとても不思議な感じがしました。

以上で、僕の八丈島の話は終わりになります。2020年は遠出することができなかったのですが、2021年はどこかに出掛けて、自然を満喫したいと願うばかりです。  
(完)



## 植物と人々の博物館 Plants and People Museum

### Vol.22

小菅村中央公民館を転出してから早いもので3年半余が経ちました。現在は、小菅村中組地区井狩（いかり）集落（井狩バス停近く）にて新たな拠点を借り、展示・収蔵・普及啓発活動を行っています。

展示は、「生き物の文明へ、五感を研ぎ、第六感を澄ます」をテーマに、自然文化誌研究会・東京学芸大学探検部の民族植物学収集品を中心に構成しています。また、「森と村の図書室」として、民族植物学、山村・農林業、環境学習などに関わる国内外の図書・雑誌を約6000冊収蔵しています。雑穀、南アジア、環境教育、地域振興関連の資料に特色がありますので、ご関心をお持ちの方はぜひご利用ください。

最近の活動の様子、収蔵品リスト、電子出版物などについては、HP (<http://www.ppmusee.org/index.html>) で公開しています。



⇒次回は、雑穀の取り組みと民族植物学ノオトの発行についてご紹介する予定です。

## ○2021 年春～夏の活動予定のお知らせ

2/14 『第 17 回通常総会』『理事会』 @zoom によるオンライン会議にて

5/3-5 『冒険学校 スタッフ研修会』 @小菅村 2泊3日

8/5-11 『こすげ冒険学校』 @小菅村 6泊7日

9/25-26 『INCHまつり』 @小菅村 日帰り or 1泊

※今年度よりスタッフ研修会を月 1 回ペースで開催する予定です！！

## ○ 事務局より

・昨年度に事業を行えない中、会費を納入していただきありがとうございました！！また、普段より多い額の会費を納入していただいた方々もお礼の声をいただきました、重ねて御礼申し上げます！！！！

・本会の主催事業だけではなく、サークルちえのわ主催の「ちえのわ農学校」も昨年に引き続き開催の見合わせをしています・・・何とも言えない状況が続いています。

・主催事業の開催は見合わせていますが、自己責任での「いつものキャンプ場」の利用は受け入れております。ご相談いただければ、オリジナルのキャンプを開催することは可能です。お気軽にご相談ください！！

・このような状況ですが、本会も持続化給付金の申請を行いまして給付金を受け取ることができましたこともご報告させていただきます。

・4 月下旬に予定していた「のびと講座 野草の天ぷらとお茶つみの会」も開催見合わせとさせていただきます。

・毎年 5/4 に開催している小菅村の「多摩源流まつり」は中止が決定しました。小菅の湯、道の駅、物産館、釣り場もオープンしていますのでお越しの際はぜひお声掛けください、お待ちしております♪ 事務局 くろさわ

## ○ 事務局の麗しき日々

・翔くんが親になったもよう。おめでとうございます～♪

・風馬は小さい頃からの夢を叶え鉄道車両メーカーに就職するもよう。

・黒澤家のサンルームは完成したもよう。ありがとうございます～♪

・ちかちゃんは九州地方に進学したがオンライン授業のもよう。

・だにえるはある承諾を得て、生活に変化があるもよう！！？

・小林さくらちゃんは 1/2 の小菅村の成人式に出席したもよう。

## ○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称 INCH (インチ)。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、40 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座(のびと研修会)』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下 8 つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額(1～12 月)です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員：10,000 円 一般会員：5,000 円

学生会員：3,000 円 賛助会員(個人・団体)：10,000 円

家族会員：6,000 円 準特別維持会員：50,000 円

特別維持会員：100,000 円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円

雑穀街道特別会員(小菅特別から変更)：1 口 1,000 円から

成合基金(冒険探検基金)：「成合基金」と記載してください。

郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマステ 141 号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日>2021 年 3 月 20 日

<編集>自然文化誌研究会 事務局

<発行> 特定非営利活動法人

**自然文化誌研究会**

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL：0428-87-0165・090-3334-5328 (事務局黒澤)

E-mail：npo-inch@wine.plala.or.jp

H P： <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

次回「ナマステ 142 号」は、5 月中旬の発行を予定しています。お楽しみに！！